

オブジェクション177

岡森 利幸

騒がしい人たち

本編は、次の13項目からなる。この中には私の憶測が幾分含まれるが、それは真実に迫るためのアプローチの一つと考える。

- ① 日銀は政府の子会社だから
- ② ソウル繁華街・ハロウィーン夜の人波
- ③ 女子中学生の自殺をほう助した男
- ④ 竹刀で指導した顧問たち
- ⑤ 宗教への寄付は年収の10分の1
- ⑥ Jアラートは人騒がせ
- ⑦ 村田兆次、晩節の失投
- ⑧ 死刑のハンコを押したときにだけ注目される役職
- ⑨ 飯能で3人が殺害された事件
- ⑩ ロシア、ダリア・ドウギナ氏爆殺事件
- ⑪ プーチンは核兵器で威嚇する
- ⑫ ペロシ訪台で騒ぎまくった中国政府
- ⑬ 台湾海峡、波高し

・文中敬称略。
・文中の会話文には、筆者が推測するフィクションが含まれる。

・以下の【】内は、新聞記事・週刊誌の引用あるいは要約・意識したもの。

① 日銀は政府の子会社だから

【毎日新聞朝刊 2022/3/19 経済

日銀、悪い物価上昇に苦慮。金融緩和は維持する。】

【毎日新聞朝刊 2022/5/11 総合

国の借金1000兆円超。安倍元首相が5月9日、「日銀は政府の子会社」と発言し、（巨額借金は）問題ないとの認識を示した。

「政府短期証券」を含めた国の借金の全体額は、1241兆3074億円となった。】

【毎日新聞朝刊 2022/5/18 経済

安倍元首相発言「日銀は政府の子会社」が、波紋を広げる。慌てる政府は火消しに躍起だ。

安倍氏は5月9日の大分市での講演で、「（政府の）1000兆円の借金（国債）の半分は日銀が買ってい

る」とした上で、日銀は政府の子会社なので、満期が来たら、返さないで借り換えて構わない。心配する必要はない」と語った。

1998年に施行された新日銀法では、「日本銀行の通貨及び金融の調整における自主性は、尊重されなければならぬ」と明記されており、政府は直接関与できない。」

【毎日新聞朝刊 2022/6/6 総合】

世銀が試算、食料価格1%上昇で1000万人が貧困に陥ると試算した。」

【毎日新聞夕刊 2022/6/7 近事片々】

日銀の黒田総裁「家計の値上げ許容度も高まっている」とは（日銀にとって）都合のいい解釈ではないか。」

【毎日新聞夕刊 2022/6/8 近事片々】

日銀の黒田総裁が謝罪。彼の言い分「値上げ許容度が高まっている」とは、庶民とかけ離れた感覚だ。」

【毎日新聞朝刊 2022/7/8 経済、参院選 2022】

日銀、6月国債購入1.6兆円、月間で過去最大。日銀は物価上昇率を安定的に年2%に高める目標達成のため、大規模な国債買入れを続けている。日銀は「独立」だったはず、物価高、円安（を招いた）。アベノミクス後、政府の意向を無視しにくくなった。」

【毎日新聞朝刊 2022/10/29 経済】

日銀の決定会合で、物価の番人が動かず。2%越えは一時的とみならず。」

【毎日新聞朝刊 2022/11/29 経済】

日銀、保有国債の時価総額が、初含み損8749億円。22年9月末時点で簿価は545兆5211億円、時価は544兆6462億円だった。

長期金利は日銀が上限を定める「0.25%程度」近辺で推移していた。日銀は上限を超えないよう国債を無制限に買い込んでいる。」

【毎日新聞夕刊 2022/12/8 特集ワイド】

2022年度第2次補正予算が成立した。一般会計の歳出総額29兆円の予算は歳入の8割を借金（国債）に頼るいびつなもの。この国債を今や日本銀行が半分を保有する異常事態になっている。日本総研主席研究員は、このままでは政府と日本銀行が危機的状況に陥ると警鐘を鳴らす。」

1. 国債の大量発行を助長する

日銀は、底なしの「日本国債コレクター」になっている。日本政府にとって、日銀は国債をいくら発行しても、買い取ってくれる。しかも、ゼロに近い金利だ

から、うれしい。日本政府は、増税せずに歳出を増やしたいから、国債に頼る。増税すれば与党の支持率が確実に下がることになるから、選挙をにらむと、国債に頼るしかない。日銀の存在がありがたい。

それぞれの出費を年度の当初予算に組み込むと、予算増が目立ってしまうから、それを隠すために、近年では、補正予算に組み込むことが常態化している。2022年度第2次補正予算の29兆円とは、年度の初めに想定されていたのだから、もう「補正」とは言えなくなっている金額になっている。野党が何と言おうと、与党の多数決で押し切ってしまう。

そして日銀は、政府が借金（主に国債を発行する）を膨らませてことに、せっせと協力している。

2. インフレーション理論

日銀黒田総裁は、その職についてから、継続的な物価2%アップを目標として、金融緩和を実施してきた。つまり、日銀は物価を安定させるどころか、毎年物価を2%上げることに努力してきた。就任以来、6年になり、その目標は達成されつつある。しかし、それはひどいインフレーションだといわなければならない。物価上昇の嵐が吹き始めている。日銀が物価上昇を誘導した金融政策など、6年たつても、うまくいって

ない。悪いインフレさえ、引き起こしている。（良いインフレか悪いインフレかの区別はつけにくい。良いインフレとは、政府にとって都合がよいことだろう）

日銀は大量の国債（政府が発行する約半分）を保有しているが、インフレでその価値が下がろうと、意に介さない。政府の借金が実質的に減るから、いいだろうぐらいに思っているにちがいない。

2%のインフレを理想とするのは、経済学では、確立した理論かもしれない。しかし、一般消費者にしてみれば、物価が年2%も上がれば、死活問題だろう。食費、通信費、衣服費、学費……その他もろもろが2%上がることを想像すると、耐えられないことだ。生活がじり貧だ。世界では、食料価格1%上昇で1000万人が貧困に陥るほどなのだ。

経済学者の通説として、物価が上がれば、経済が活性化する、それに伴い賃金上がるから、購買欲が高まり、物が売れるという好循環のサイクルに入れる、などと説明している。それは机上の空論というべきものだろう。現実には、好循環になっていない。物価の上昇傾向があれば、消費者は貯蓄せず、早めに商品を購入するから、という理由がある。無駄なものをどんどん買わせる理論なのだ。そんな経済が持続するわけ

はないし、第一、地球が持たない。

物価が上がるのに伴い、企業が従業員の賃金を上げようとしてもあげにくい状況があるのは、多くのところでも、幹部が山分けする、株主に還元する、あるいは社内留保（内部留保ともいう）にしてしまうので、その従業員の給与などはほとんど上げないのが通例だ。ポーンズ（賞与）をいくぶん多めにするぐらいだろう。物価を上げれば（つまり、お金の価値を下げれば）、経済が好循環で回りだすと考えるのは、甘すぎる。国民生活の悪循環が回り出す恐れがある。

そんな経済理論はともかく、私の持論としては、物価高は確実に実生活を貧しくさせる、むしろデフレのほうが、物が手に入りやすくなるから、生活を豊かにさせる。賃金は変わらずとも、実質的な収入が増す。

3. 物価高の世界

世界的には、物価対策として、金融引き締めや金利を上げる方策をとっているのに、物価高や円安に苦しんでいる日本では、日銀が何も対応しようとせず、無策を続けている。インフレによって、庶民の生活はますます厳しくなり、貧しくなっている。

インフレーションは、世界的な食料不足、石油・天

然ガスの供給が滞るといふエネルギー問題に由来するもので、たまたま日銀の目標が達成された形だ。

政府のインフレ抑制策を盛り込んだとされる来年度予算案は、建前だけだ、という指摘をマスメディアがしている。

お金のない政府は、通貨の管理に口を出し、紙幣をどんどん発行させる例が世界的にあり、すべての国が、その傾向にあると言つてもいいだろう。しかし、経済がインフレになり、お金の価値はどんどん下がり、政府の財政も悪化するものだから、ますます紙幣の印刷に精を出す。つまり、財政破綻する。政府だけでなく、物価の上昇に収入が追いつかなくなるから、国民の生活全体が困窮する。

物価が2%上がれば、実質賃金は2%下落すると思わなくてはならない。物価ばかり高まれば、日本は確実に貧しくなるのは、目に見えている。それに対応するためには、人々はもつとあくせく働いて稼がなくてはならない。

年金は、物価上昇分が上がるわけではない。「マクロ経済スライド」によって目減りしてしまう。年金生活者にも、しわ寄せがくるのはしかたがないことか。政府にとって、年金支給額を実質的に減らせるから、

うれしい政策だ。

② ソウル繁華街・ハロウィーン夜の人流

【毎日新聞朝刊 2022/10/31 一面、総合】

ソウルの繁華街イテウォンの路地で人々が折り重なるように転倒した事故、153人死亡。死者の多くは圧死だった。ハロウィーンを前に若者らがごった返していた。狭い路地に群衆が押しかけた。対策不備か】

【毎日新聞夕刊 2022/10/31 一面】

ソウル雑踏事故、10月29日夜、午後8時ごろ現場を通行した男性「ここで転んだら死ぬ」午後9時にはもみくちゃになった。】

【毎日新聞朝刊 2022/11/1 一面、社会】

ソウル雑踏事故、長さ40メートル、幅3.2メートルの梨泰院の坂道で、18平方メートルに300人が倒れた。1人に最大400キロの圧力か。専門家「突発的な群集なだれ」六重、七重に折り重なって、死者は計154人に。圧迫による「外傷性窒息」か。】

【読売新聞朝刊 2022/11/3 一面】

ソウル雑踏事故、ソウル警察庁などを捜索。韓国警察庁は1日、事故の4時間前から「圧死しそうだ」など

と危険性を知らせる通知が計11件寄せられたが、適切に対応しなかったと明らかにした。】

【毎日新聞夕刊 2022/11/12 総合】

ソウル事故管轄、情報課係長が死亡、自殺とみられる。同課の職員が「予想を超える人流が押し寄せる」と懸念した報告書を事故後に削除を指示した疑いがもたれていた。】

【毎日新聞朝刊 2023/1/4 国際】

韓国雑踏事故の犠牲者159人に。10代の男子高校生（当時）、事故で負傷し、友人2人が死亡したことで心理的トラウマを抱えていた。12月12日自殺。事故による死亡者と認定された。】

数時間前から、いくつかの報告や救援要請の連絡が警察に寄せられていた。「ここで転んだら死ぬ！」

夜10時過ぎ、それが現実のものになった。初めに一人の転倒者が出て、倒れた人の上にかぶさるように大勢が倒れこみ、ドミノ倒しのような現象が生じた。雪崩現象だ。その下敷きになった人々は、重みで息が

できなかつた。

亡くなった数、159人。将来ある若者たちばかりだから、遺族たちの悲しみは大きい。非難の矛先は警

察に向けられた。

どうして、狭い坂道に人がそんなに集まったのか。

それはハロウィーンの夜だったから。ハロウィーンの夜は厳密に言えば、10月31日だが、若者たちはその数日前から、盛り上がっていた。「お祭り騒ぎ」で町に繰り出していた。

ハロウィーンは（子どもが悪魔に扮装し、お菓子をねだる西欧の伝統的な風習。古代ケルト人の宗教儀式に発祥する）だから、もう青年期の若者たちが集まる理由はないのだが、季節の行事として、いっしょに楽しむという気分になっている。思い思いに仮装している人が街に出て見せびらかすので、見物気分で街に来る人もいる。みんながそんな上機嫌になっているから、こういうときに、酒を飲んで騒いでも、たいてい黙認される。

でも、おとなたちは、（何でハロウィーンに人びとが街にそんなに繰り出すの？）という素朴な疑問を持つものだろう。理解不能かもしれない。たいていの祭りには、バカバカしさがある。「若ものらが勝手に騒ぐがいい」と見放していたのかもしれない。ソウルの警察には、そんなおとなたちがそろっていたようだ。

「たかが若者たちの祭りだろ、何かにつけて集まりた

がるアホどもだ、かってにさらせ」という軽視した、みくびつた感情があったのだろう。

この数日間、人が集まるのが、例年のことであり、分かっていたはずだし、事故の数時間前から、そうとう緊迫した現場での情報が警察に寄せられていた。しかし、警察は実効ある対応をしなかった。

この場合、特定のイベントのような主催者がいるわけではなく、自然発生的な群集だったから、責任の所在が、警察だけになっていた。その警察の対応がいい加減だったことから、批判されている。警察には、規制しようとする考えがなかった。責任の自覚がなかった。人が集中して、ギューギューづめで身動きが取れなくなることは、ラッシュアワーの電車の中で、多くの人が経験していることだ。ギューギューづめでも、立ち止まっていれば、死ぬほどの大きな力はかからないが、動き出したときが危ない。

事故が起きなければ、その危険性は認識されないのが通例だ。でも、それは予測できた。そこは梨泰院イテウォンの狭い路地裏の坂道だった。一部に、建屋の脇にエアコン室外機を地面に置き、壁を作っているところがあり、ますます狭くしていた。この坂道が、見るからに危険だ。次に人々が集まる行事があるときには、坂の上だ

けでも封鎖するしかないだろう。

そもそも人々が、全然先に進まない行列に立ち並ぶことに問題があると思う。私なら、行列の長さにうんざりし、並ばずに、あきらめて引き返したい。ただし身動きできない状態になれば、引き返せない。

近年世界でも、聖地に集まった巡礼の人々が大行列を作ったとき、狭い橋の上での同様な事故が起きた例がいくつか報道された。日本でも、2001年7月に明石市で花火大会終了時に人々が歩道橋（陸橋）に集中し、身動きが取れない状態になったことで大惨事になったことが、記憶にある。ここでも警察の対応のまづさが指摘された。

惨事があった後の現場には、人々が履^はいていた多くの靴が散らばっている光景が、共通的にある。今回もそうだった。そんな状況では、動かせるのは足だけなのだろうし、靴が他の人に踏まれたりして脱げてしま^うわけだ。

何かのイベントの後に、多くの靴が脱げた場所があれば、次回の開催時には、そこでは通行規制が必要だという目安になる。

③ 女子中学生の自殺をほう助した男

【毎日新聞朝刊 2022/10/18 社会】

神奈川県警が中学生の自殺ほう助の疑いで野崎祐也容疑者を再逮捕。最初の逮捕は9月27日、未成年誘拐容疑だった。

【毎日新聞朝刊 2022/11/8 社会】

SNS自殺ほう助の容疑者逮捕。

「橋の欄干に立つのを手伝った」野崎容疑者はSNSで自殺願望をほのめかしていた女子中学生に接触し、自殺場所として相模原市内の山中にある橋を提案した。9月20日、東京都内の路上に呼び出し、さいたま市内のある自身の自宅まで移動。23日に野崎容疑者は相模原市内の山中に車で連れて行き、自殺直前まで中学生に自殺するよう強く促していたとされる。「女子中学生が自殺すれば、誘拐が発覚しないと思った」とも供述している。

【毎日新聞朝刊 2022/11/20 社会】

横浜市の女子中学生の自殺ほう助の容疑者・野崎祐也はSNSの会話を削除していた。接点を隠す？

自殺をほう助したと聞いて、第一感で私は野崎祐也

容疑者（29）を「親切的な男だな」と考えた。しかし、実際は、殺人に近い「ほう助」をした疑いが強まっている。単に親切ではなく、下心があったといわなければならぬ。

出会いはSNSだったという。自殺をほのめかした少女の短文を男が見つけ、近づいた。中学生の少女としては、親切的な青年に出会ったという意識を持ったかもしれない。

9月20日、東京都内の路上に呼び出し、さいたま市内のある自身の自宅まで移動したのは、誘拐の嫌疑がかかる行為だろう。車を利用し、自宅に連れ込んだわけだ。

3日後の9月23日に相模原市内の山中に車で連れいった。その間に何をしていたか。

男は少女の話を聞いたり、衣食住を提供したりしていたのだろうが、男の目的が少女の肉体にあったことが想像できる。「誘拐が発覚しないと思った」と供述しているから、それに違いない。

そして橋の上に立たせ、自殺直前までに少女に自殺するように強く促していたのは、ほう助というより、殺人に近い。

「いまだ、飛び込め！ さあ、さあ」などと、言葉で

その背中を押したことになる。

これは誘拐殺人事件だろう。性的暴行の疑いもある。自殺願望の中学生をかどわかし、「誘拐が発覚しないように」と考えた男が仕組んだものだ。自殺してしまえば、口封じになる。

そんな少女に、28歳（容疑者の当時の年齢）のころの私なら「将来オレの嫁になるまで、とりあえず、生きろ！」と励ましたかもしれない。「はい、でも、あなたの嫁になるのはイヤだ」と言われたりして。

④ 竹刀で指導した顧問たち

【毎日新聞朝刊 2022/11/5 社会】

顧問に竹刀で殴打された部員が自殺。私立博多高剣道部の一年生だったxx侑夏さん（15）は、剣道の特待生として入学したが、右腕と左足首を痛め、過酷な練習（3キロのランニングの後、素振り1840回を1時間以内でする）についていけなくなった。顧問はほかにも、必要以上に竹刀で突く、部員の前で突き倒して転倒させるなどを続けた。別の顧問「貴様、やる気あるのか」

【毎日新聞朝刊 2022/12/24 スポーツ】

スポーツ現場における児童生徒への暴力事案の数々、顧問による暴力か絶えない。」

高校の剣道部だから、顧問が竹刀を持っているのは当然なのだが、この学校の顧問たちは竹刀を、ふがない部員たちを痛めつけるためにも大いに活用していたとみえる。

ビシバシと指導していた。怒鳴りまくって、叩いたり、突きを入れたりしていた。名目は顧問だが、実質的にはコーチであり、監督だ。剣道の「猛者」だったに違いない。

彼らは、中学生だった侑夏さんを見出し、自分の高校に特待生として入学させたわけだろう。しかし入学後、侑夏さんはその期待を裏切って、ふがない態度を見せた。顧問たちはいらだちを募らせたのだろう。

「キサマー、こんなことでへこたれやがって……、シヤキッとせんかあ」、「たるんどる！ 気合を入れんか」、「動きがとろんいだよ。すばやく動かんか」
「キサマだよ、キサマ」と言いつつ、さっと一歩踏み込み、いきなり竹刀で喉元を突いたりしたのである。少女は身かわすことができなかった。無防備な状態で倒れこんだ。顧問が鬼の表情でにらんでいたから、

動けなかったのかもしれない。剣道の面には喉元を保護する防具がついているが、まともに突きが喉に入ると、ほとんど失神する。（ただし、私の剣道の経験では、みたことはない。だいたい突きの練習はしない）
侑夏さんは、右腕と左足を痛めたことを顧問に告げなかったのだろう。それは言い訳になってしまふ。そんなことを言える雰囲気ではなかったのだろう。

でも、完治しないまま、ハードな練習をすれば、余計に悪くなってしまふ。単にスパルタ指導することに熱心な顧問たちは、それを知らなかったとみえる。部員の健康には注意を払い、「言い訳」を聞き入れる姿勢を見せなければならなかった。

おそらくそんな部員には竹刀でビシバシ殴るのが、その剣道部伝統の気合の入れ方だった。部員が手足が痛いと言い出したら、聞く耳を持たない顧問たちは怒りまくるのだろう。

「ナニー？ 足が痛いだと？ 練習に身が入らないから、痛くも痒くもなるんだ。練習に励めば、痛さなど感じないのだ」

「ナニー？ 右腕が痛いだと？ 痛いぐらいで何だ、キサマー、練習をさぼりたいんか？ 言い訳ばかりしておつて。泣き言、言うな、未熟者め！」などと、

叱り付けるにちがいない。

そもそも中学・高校の時代は、特に体の変化が大きいとぎだから、指導者は、部員の異変には敏感でなければならぬ。しかし、そのコーチには侑夏さんが練習をサボっているように、あるいはやる気がないように見えたから、特別に気合を入れたわけだろう。

侑夏さんは、度重なる顧問たちの厳しい指導（叱責・罵倒）に耐えられなくなった。痛めた手足がさらに痛んだ。苦痛で練習についてゆけず、さらに顧問にどつかれ、怒鳴れられてばかりになった。他の部員たちに蔑あざむまれたりし、精神的にも惨めな気持ちに落ち込んだ。追い込まれた少女は、自殺をほのめかし、実行した。

人生をやめるより、どうして部活をやめなかったか、という疑問が浮かぶが、剣道の腕を見込まれて推薦入学したから、部活をやめると言い出したら、顧問が烈火のごとく怒り、「オレが推薦したのに……。オレの顔に泥を塗るつもりか！ 恩を仇で返しやがって」

「剣道をやめるなら、退学しろ！ キサマなど、この学校に必要な」と言い放つに違いなかった。

侑夏さんはそんな学校をやめればよかったかもしれない。遺書より退学届けを書くのが先決だろう。

この学校は、どうやら剣道の強豪校として有名なものかもしれない。剣道を強化し、学校の名を全国的に高めたという方針があるのだろう。顧問についても、体育会系バリバリの「指導に熱心な教師」を雇い入れていたのだろう。彼らはスパルタ式の練習に徹し、部員をみっちり鍛え上げるつもりでいたのだろう。そのためにも、部員たちをどやしつけ、震え上がらせ、否応なく激しい無理な練習を強いる。竹刀でビシバシ叩けない。心身を強くするためには、しごきまくることが一番、と考えるような連中だろう。とにかく練習あるのみ、と考える。不満を言おうものなら、どやしつけ、竹刀でぶったたく。

（オレも、こういう指導を受けて強くなったんだ）と自信を持っている。そして、怒鳴りまくることが基本的に楽しい。かつて彼らは、ささいな理由で、当時の顧問たちによく怒鳴られたり殴られたりした経験があるのだろう。その仕返しができることが楽しい。

遺族の訴えで悪評が広がるのを恐れたらしい学校は、関係した顧問たちをやむなく解雇しようだが、いまごろ、彼らは（あの子は、いい選手になれると思ったが、精神的に弱すぎだよ。ケガばかりして肉体的にも

弱かった。剣道で突きをまともに受けてはいかんよ、かわさなきや……」と、ぼやいたりして。

⑤ 宗教への寄付は年収の10分の1

【毎日新聞朝刊 2022/11/18 一面】

旧統一教会被害者救済新法、政府案。「借金して寄付しろ」は禁止。」

【毎日新聞夕刊 2022/11/19 焦点】

救済新法で、寄付上限なし（上限を定めない）、高額を規制するより悪質性を規制する。実効性に疑問の声もある。」

【毎日新聞朝刊 2022/12/2 一面】

救済新法案、閣議決定。「靈感を使って不安をあおる寄付勧誘行為を禁止し、寄付を募る法人への配慮義務を定めた。」

【毎日新聞朝刊 2022/12/7 検証】

「高額献金、返還どこまで」

宗教団体に寄付した信者の中には「献金は私の自由意思によるもの」などとつづった念書を書かされたケースがある。その様子や発言をビデオ撮影された場合でも、首相「そのような意思表示の効力は生じないと考

えられる」と、念書などの効力を否定した。」

【毎日新聞朝刊 2022/12/9 一面】

救済法案、衆院通過。勧誘時（宗教団体に）十分に配慮を求める。禁止行為があった場合、取り消しの対象とした。扶養されている子どもや配偶者についても、寄付した本人に代わって扶養の範囲内で返還を求めることが可能とした。」

【毎日新聞朝刊 2023/1/6 総合・社会】

旧統一教会、被害者救済法が1月5日に施行された。悪質な寄付を規制する。」

高額寄付が問題になっている。宗教家が、あるいは宗教団体が信者に対して、高額すぎる寄付（献金、寄進、お布施などを含む）をさせるのは、禁じ手といわなければならない。救いの手を差し伸べるべきものが、おかねを要求するために手を差し伸べている構図になっている。

この法律では、悪質な寄付要求を規制するのが主眼になっているが、その実効性は低い。それより、高額すぎるのを規制することが明確であり、確実だった。悪質がどうかを判定するためには、言ったか言わなかったかを見極めなければならず、被害者側がそれを証

明するのは難しい。宗教団体が「借金して寄付しろ」「先祖の霊が地獄で苦しんでいる」などとは言わなかった、と言いつ張るならば、どこまでも平行線になる。

教祖や宗主などと呼ばれる人物はそれなりの教養を見に付け、話し方や文才に長けている人が多い。説得力があり、それなりに洗練された教義を説き、その奥義の深いところまで人々を引きずりこむ。それを巧みに悪用するケースがある。

神の声を聞いたと自称する者が、あるいは神の名を借りた者が、人々の心をつかみ、信用させた上で、人々に金を要求するのは「だましの手口」に通じることだ。彼らは、信じやすい人々につけ込む。神の正体が、マジシャンであったり、詐欺師であったりする。神の声は、特殊詐欺の電話の声と変わらなかつたりする。相手の顔が見えない点で共通だ。

信者たちに寄付をたびたび促したり募ったりして、金品を巻き上げることに特にうまくいったのが、統一教会グループだ。手広く金を集めている。結婚や養子縁組にも関わり、仲介行為をしてきた。そこで金が動いた可能性が考えられる。

信者たちに億単位の寄付をさせることも珍しくなかった。しかも、ある熱心な信者が高額な献金をした場

合、それに飽き足らず、さらなる献金を要求してきたりする。「献金」を何度も要求するのは、悪徳業者や詐欺師の手口そのものだ。高額な寄付をさせるために、脅したりすかしたりするのが、悪徳宗教団体だ。祟りや邪気、悪魔のイメージをダシにして脅す手口をよく使う。宗教を金集めのための「道具」にしている。

「献金をすれば、何らかの救いや、福が得られる」というような「前払いを要求する」やり方は、卑怯な手段といわなければならぬ。献金はお礼（災いを払い、福をもたらしてくれた返礼）の意味で行うことが望ましい。気まぐれな神様が、願いを叶えてくれるかどうか、わからないような場合は、一枚の硬貨を賽銭箱に投入するだけでいい。

高額な寄付をさせてはダメ、とはつきりさせるべきだろう。教義はともあれ、寄付金の額が問題なのだから、その額を数値で規制することが必要だ。裕福な人ならともかく、庶民感覚的には、一万円以上の出費は高額と考えられるだろう。私は、「宗教への寄付は収入の10分の1以下」を提案してみたい。十分に高額だろう。それを法的な限度額と定めたい。

年間300万円の収入がある人の場合、30万円を一応の歯止めとする。30万円を「宗教費」として使

うのは、それでも大きな出費だろう。その分、生活費を切り詰めなければならぬ。もちろん、「宗教費」は借金をして工面するべきものではない。

それ以上の寄付を年間に受け取ったら、宗教団体は無条件に返金しなければならない、と法律で定めたい。「暴利」を許すべきではない。今般の被害者救済法は私目からも物足りない法律だ。献金に規制をかける意味で前進だったが、とこかの宗教団体に遠慮してか、まだ与党側の踏み込みが弱い。

寄付の取り消し（返還）に関しては「靈感を使つて勧誘した」など、手段が不当だったときに取り消せるというが、靈感がどうかの証明は難しそうだ。例えば、「神の指図（あるいはお告げ）に従つて献金したもので、自分の意志ではなかった」と言い張つても、従うことを決めたのは自分の意思だろう、と言われてしまふいそうだ。

寄付には、常に取消権があると定めるべきだろう。

「献金したけれど、何のご利益もなかった」と気づかされたとき、あるいは「自分の経済力に不相応な献金をしてしまった」と考えるようになったら、返金を求めたい。「前払い献金」をした場合には、特に取消権が無条件に認められるべきだ。

信者がその後心変わりして「寄付を取りやめたい」と言い出したときに、受けた側は「救済してやったことの代金なのだ」あるいは「それでは先祖の霊が浮かばれない」などとつべこべ言わずに、無条件で即刻、全額の返金に応じるべきだろう。もちろん「手数量」などを差し引いてはならない。もしも「救済してやったことの代金なのだ」と言い出すのなら、〈救済した証拠〉を見せるべきだ。祈祷などの祭祀的技法によって「あなたのご先祖様は救われた」のなら、どうしてそれがわかるのだ？ 彼らは「靈感でわかるのだ」と答えるのだろうか。

⑥ Jアラートは人騒がせ

【毎日新聞夕刊 2022/10/4 社会】

北朝鮮ミサイルで、住民や漁業者、恐怖と怒り。「命の危険」が身に迫る】

【毎日新聞朝刊 2022/10/5 一面、クローズアップ】

北朝鮮ミサイルが日本通過、5年ぶりにJアラートが発令された。ミサイルは過去最長4600キロ飛行、青森上空を（最高高度約1000キロで）通過した。（Jアラートの対象地域に伊豆七島が含まれていた）

東北新幹線と北海道新幹線が一時運転を見合わせた。政府は防衛力強化を急ぐ。】

【毎日新聞朝刊 2022/10/6 総合

Jアラートの誤発令で、官房長官が陳謝。都内諸島部（伊豆七島）にも発令されたのは、過去の訓練時の送信先が消去されていなかったことが原因だった。】

【毎日新聞朝刊 2022/11/4 一面、社会

北朝鮮、ICBMなどを発射。Jアラート発令、EEZ外落下。「日本上空を通した」と発表した後、訂正。

北朝鮮ミサイルで3県にJアラート。「発令、またか」

「慣れが怖い」】

【毎日新聞朝刊 2022/11/5 総合

自民「Jアラートを改善せよ」、発信・訂正の遅れで苦情が相次ぐ。政府、システム改修を検討。】

Jアラートが鳴り響くことの影響は大きい。ミサイルは高速なものだから、Jアラートが警報を発するタイミングでは、もうミサイルは日本列島を飛び越している、という遅いという問題点がある。ミサイルが日本列島に届いていないのに、Jアラートを出したケースもある。そんな不正確なJアラートがどれだけ役に立つのだろうか？

今年第一回目のJアラートは、10月4日、東北の北部と、伊豆七島の2つの地域に発令された。二カ所に着弾の可能性があるとは、ひよっとして北朝鮮からの本格的な攻撃開始か、と私は一瞬疑ってしまった。しかし今では、Jアラートはミサイルが日本列島の上空を通過する、というだけの警報なのだと理解する。

Jアラートは、「飛行物体」が日本の上空を通過すると予想されるだけで、鳴り響く。しかし、高空を通過する分には、危険はない。一般の航空機にしても、15km以下で飛んでいるから、それ以上の高度で飛んでいくならば、航空機に衝突する危険もない。

これまで日本列島を飛び越したミサイルなど、はるか遠方の太平洋上に「着水」しており、日本列島にかすりもししていないのに、日本列島の住民が大騒ぎしてしまう現状がある。その警報の主役が、Jアラートだ。危険がないのに、警報するのは迷惑なだけだ。「人騒がせ」というものだろう。

どこに落下するかが問題であり、少なくとも日本列島に落下する恐れがあると計算されたときだけ、Jアラートを鳴動させるべきだろう。太平洋上に落下すると予測されるなら、付近を航行する航空機や船舶に警報を出せばいいことだろう。ただし、それらが警報を

受けたとしても、おそらく、よけようがない。

あるいは、日本列島を飛び越さず、EEZ外に落下するのであれば、危険から程遠い。Jアラートで警報を出すまでもない。

たとえば、日本の領域に落下したとしても、ミサイルの弾頭に実弾は込められていないだろうから、ミサイル本体の破片が落ちてくる程度のことだろう。〈日本の上空を飛ぶ航空機が部品を落とす程度の事件〉にないだけであり、大騒ぎすることではないのだ。実弾を込めているかもしれないと心配する向きもあるかもしれないが、北朝鮮として、短距離のものとはともかく、今の段階では遠くにミサイルを飛ばしてみせることに意義があるのだろうか。実弾を撃ち込むことではないだろう。彼らにとつて「高価な実弾」がもつたいたい。特に核弾頭の値段（コスト）は高そうだ。

そもそも、いきなり他国にミサイルを撃ち込むような非常識な国は——あり得るのかもしれないが、極まなケースだろう。

日本ではJアラートによって、主要な交通網を担う各社が、航空機の航行をキャンセルしたり、新幹線などの走行を一時的に止めたりする「行動規則」になっているらしく、利用者が大きな迷惑を受けるし、大き

な騒ぎになる。実質的に、Jアラートが人々の恐怖心をあおる。

政府はこれを口実に、「反撃能力」を持つこととするなど、ミサイル防衛のための巨額な予算を盛りこむことになる。政府は防衛予算を確保するために、やはり、国民を不安にさせるJアラートが必要なんだろう。

政府は〈最近のミサイルには変則的な軌道で飛ぶ種類もあるから、列島の上空に来るものすべてを警報するのは意味がある〉とでも、説明するのだろう。それを言うと、国民はますます不安になる。飛んでくるコースが予測できないわけだ。

今般、Jアラートの発信が遅いものだから、関係者が何とか早めようと、今まで発信する地域の範囲をある程度絞っていたが、それを止めることで1分ほど早める改修を進めているようだ。つまり、ミサイル発射直後のあいまいなデータに基づいて、おおまかな計算に基づいて、広範囲の地域にJアラートを出してしまおうとしている。人々を騒がせる地域を広げることになる。ますますJアラートの正確性がなくなる。

⑦ 村田兆次、晩節の失投

【YAHOO!ニュース 9/24(土)17:00 村田兆治容
疑者「警官多数に囲まれて」緊迫の逮捕劇・一部始終
9月23日に羽田空港第1ターミナルで暴行を働いた
として逮捕された元プロ野球ロッテの選手だった村田
兆治容疑者。取材を進めていくうちに、その当時の緊
迫した模様が分かってきた。「村田さんが揉めていた
のは、JALのファーストクラス乗客やプレミアム会
員だけが使える専用保安検査場でした」そう語るのは、
たまたま居合わせた男性客。彼が村田容疑者を見た時
きは、すでに10人近い制服警察官に取り囲まれて
いたという。

「まだダメなのか!」「持つてない!持つてない!」
「いつも持つて入っとる!」と、かなり強い口調で話
していたという。「とにかく、村田さんはすごく激高
していて、警察官は一生懸命になだめながら、何か彼
が持つているモノをしきりに提出するように求めてい
ました。しかし、村田さんは一向に耳を傾けない感じ
でしたね」

保安検査場での押し問答は30分以上続いたとか。そ
の様子を少し離れたところで見っていたJAL女性地上

職員の困惑した表情が印象に残っているという。ま
た、別の居合わせた女性客も恐怖の現場を振り返る。

「村田さんは警察の制止を振り切って、何度か強引に
空港の中に入ろうと試みていました。ですが、そのた
びに警察官2、3人が前に立ちはだかり、〃ダメダメ
ダメ〃と押しとどめられていました。村田さんは大
声で怒鳴っていましたし、警察官も言葉は冷静でした
が、どこか殺気立っている感じ。とても怖かった」
まさに修羅場と化していた現場が見てとれる。そんな
状況を打開しようと、警察官は何度も「他のお客さん
の邪魔になるんでこちらに来てください」と村田容疑
者を別の場所へ移動することを促していたという。】

【デイリー新潮 2022/11/12 亡くなった村田兆治さん
が語っていた「空港での逮捕劇」

(釈放後のインタビュー)

「まさか、あの行為が暴行になるとは思いもしません
でした。逮捕されたこともショックですが、その容疑
が暴行であることに二重のショックを受けています」

こう沈痛な面持ちで話し始めた村田さんは、くだんの
女性検査員のことを特に気にかけていた。

「急いでいたので〃ちよっとどいて〃と女性の肩を右
手で押して通ろうとしたのですが、結果的に押しのけ

る形になってしまった。女性には逮捕される際、「申し訳ない」と謝ったけど、小さな声だったから聞こえなかったかもしれない。（彼女には）本当に頭を下げて謝りたい」

以前の出張時に入れていたハサミがスーツケースにあるとは思ってもいなかった村田さんは、居合わせた男性検査員にも「部下の教育はどうなっているんだ」と詰め寄った。

「そうこうしていると、約10人の警察官に囲まれ、ハサミがあるのだから通せない」と言われ、手錠を掛けられました。女性（検査員）だけでなく、ファンや仲間にも頭が上がらない……」

【毎日新聞朝刊 2022/11/12 スポーツ、社会】

村田兆治さん死去（72）、11月11日午前3時15分ごろ自宅2階から出火。村田さんは今年9月23日、北海道で予定された野球教室に向かう途中で、羽田空港の保安検査場で女性検査員に暴行したとして逮捕され、2日後に釈放されていた。「離島甲子園」として知られる中学生野球大会の開催を提唱し、離島振興にも力を注いだ。2階のリビングが火元とみられるが、消防が駆け付けた時、村田さんは2階の別の部屋で何かにもたれかかるように床に座った状態で発見され

た。」

村田兆治といえば、プロ野球で地味な球団ロッテオリオンズにいて、投手として活躍し、偉大な記録を達成した人だ。不屈の精神や努力が光った。プロ23年で215勝を上げた野球界のレジェンドの一人だった。1990年に40歳で引退後も、その言動がメディアに取り上げられることが多かったし、名声の高い人だった。人望があつた。マスメディアを通して私も、そのまじめさ、誠実さ、真摯に取り組む姿を見聞きしてきた。

彼は、引退後も、講演会や野球の指導で全国を飛び回っていたというから、その死は惜しまれる。ただし、その活躍は、2022年9月に暴行事件を起こす前までのことだった。

当夜、リビングには油がまかれていたというから、失火ではなく、これは故意の火災、つまり放火になる。覚悟の焼身自殺をもくろんだものと考えられる。ただし、遺書もなく、村田は火傷をしておらず、死因は一酸化炭素中毒だったから、焼身自殺と断定するには、根拠が足りない。深夜の3時過ぎに事件を起こしたから、意識の低下があつての「出来心」だったかもしれない

ない。

長年にわたって村田を支え、評判のよかった奥さんと別居して、一人暮らしをしていたという事情があったにしても、主な動機は、羽田空港での暴行事件を起こしたことだろう。2日間警察にみっちり絞られたこと（23日に逮捕され、25日に釈放。暴行を認めたことになる。認めなければ、拘留が長引くものだ。ただし、起訴されるかは未決定だった）で、まじめな村田の心が大きく傷付いた。自分でも、「ショックだった」とインタビューに答えていた。それで深い後悔にさいなまれ、人前に顔を出せないような心境になったのだろうと推察する。特に、女性検査員には申し訳ないことをしたと反省していた。しかし、この放火事件で、かの女性検査員はさらに悩むかもしれない。「私のしたことが、村田さんの死のきっかけになってしまった」でも、仕事だったと割り切れることだろう。

その暴行事件とは、村田の手荷物（スーツケース）が検査にひっかかったことに起因する。以前にも、同じスーツケースを持って航空機に搭乗したが、引っかかることはなかったし、そもそも凶器など隠し持っているつもりもなかった。村田は自分の正当性に絶対の自信を持っていた。その強い思い込みが事件を大きくし

た、と私は見る。状況を想像してみようー
女性検査員は、スーツケースの透視画像を見つめ、しばし考え込んだ。

すんなり通ると思っていた村田は、いらいらしてきた。搭乗時間にぎりぎりやってきたのだ。都内の交通渋滞のためか、あるいは彼自身が寝過ごしたためかもしれない。

村田は（そもそもファーストクラスの客に対し、手荷物を疑うことが無礼ではないか）と思っていたかもしれない。

「怪しい影が映っている」などと言い張る検査員に対し、長身の村田が見下ろしながら、「絶対に、そんなものは入っていない。検査機がおかしい。オレは忙しいんだ。さっさと通してくれ」と主張する。威圧的になってきた。

「このオレを誰だと思ってるんだ、このアマ、オレを知らないな。かつての大投手・村田兆治サマだ！ 都民文化荣誉賞だつてもらっている一流の名士だ！」と心の中で叫んだことだろう。「オレを知っていれば、顔パスで通してもいいくらいなのだ」

しかし、女性検査員はあくまでも、事務的だった。村田の勝手な主張を受け入れるわけにはいかない。

「よく調べてみたい。スーツケースを開けてください」と指示した。

「そんな暇はない、開けなくても分かっている。怪しいものは何もないんだ。開けて調べるだけ、無駄だ」
見せろ、見せない、で揉めた。

「もう出発時間だ。もういいから、スーツケースを持つてくぞ！」

村田はスーツケースに手を伸ばし、持ち去ろうとした。「ちよっと、どいてくれ」と言つて村田は、制止しようと立ちはだかつた女性検査員の肩を押した。

結局、それが暴行になった。制止しようとする検査員に、強引にふるまつたことがよくなかつた。女性検査員の合図で、村田は、すぐに駆けつけてきた検査員たちに取り囲まれた。

飛行機に乗りそこない、さらに興奮した村田は、フロア中に響く声で喚いた。女性検査員の上司らしい検査員に「部下の教育はどうなっているんだ？」と、くつてかかつた。ほとんど八つ当たりの言動をした。

結局、なだめられ、彼らの立会いのもとに、しぶしぶスーツケースを開けた。検査員の一人がスーツケースの底から、はさみを見つけ、取り上げた。

「なんだ、これは？ 凶器じゃないか。テメー、隠し

持っていたなあ」(実際にそう叫んだかは定かでない)

はさみはハイジャックの武器になりうるものとされ、持ち込み禁止品の一つだ。文房具の小さなはさみでさえ、ご法度だ。

「警察を呼べ！」と一人が叫んだ。村田は、両脇から腕をつかまれたまま、身動きできなかつた。まもなく駆け付けた警察官によつて手錠をかけられた。「暴行現行犯で逮捕する！」

「ええ？ 暴行？」

暴行だけではなく、「凶器」を航空機に持ち込もうとした容疑もあるだろう。失念したという言い訳は簡単には通用しない。取調によつて決定されるのだろうが、「ハイジャック未遂」と認定されれば、重罪になつてしまうところだつた。

プロ野球では、打者にぶつけるような危険球を投げたら、一球で退場だ。ハサミがその一球になつた。

村田は、はさみを新聞切り抜き用に使用していたものであり、スーツケースに入れていたことを忘れていた。はさみが凶器であるという認識もなかつた。前回の検査で通つたのは、形状が小さいために、透視する角度によつて見逃された公算が大きい。

村田は、数日で釈放されたが、後ろ指を差される身

となった。

「大声で文句を言いきくって、ナニサマのつもりだったんか」「自分が悪いくせに、えらい激高したそうじゃないか」「模範的な人だと思っていたが、女性検査員に暴行したとは、とんでもないやつだ」「相手が女性だと思って、見下^{みくだ}していたんじゃないか」「検査員たちの制止を振り切ろうとしたのがいけない。単にスーツケースを開けて見せればいいことだった」「スポーツマンの端くれなら、空港のルールを守れよ」「栄光の大投手も、地に落ちたものだ」「野球ばかりやっていて、野球〇〇になったんじゃないのか」「あれじゃ、子どもたちに野球を教える資格ないね」「奥さんに逃げられるのも無理ないわね」と、巷では言いたい放題のことがつぶやかれる：私が代弁してのことだけだ。ハサミで強制退場をくらった村田。そして数カ月後に、自らのゲームセット。晩節を汚した例になった。

⑧ 死刑のハンコを押したときにだけ注目される役職

【毎日新聞夕刊 2022/11/10 総合】

11月9日夜の東京都内で開かれた自民党衆議院議員のパーティーで、葉梨康弘法相は職務について「朝、死

刑のハンコを押す。昼のニュースのトップになるのはそういう時だけという地味な役割」と発言した。さらに、「旧統一教会の問題に抱きつかれてしまい、問題解決に取り組まなければいけない。私の顔もいくらからテレビに出るようになった」】

【毎日新聞朝刊 2022/11/11 総合】

反発が広がり、葉梨氏は発言を撤回し、謝罪した。以下は、9日、都内で開かれた武井俊輔副外相のパーティーでの発言の概要：

・ だいたい、法相は朝、死刑のはんこを押して、昼のニュースのトップになるのはそういう時だけという地味な役職

・ 今回はなぜか旧統一教会の問題に抱きつかれてしまった。一生懸命解決に取り組まないといけないというところで、私の顔もいくらテレビに出るようになった

・ 外務省と法務省、票とお金に縁がない。副外相になってもぜんぜんお金が儲からない。法相になってもお金は集まらない、票も入らない。よい仕事をしてもらうためには、お集まりの方々が物心両面で支えていただかないと】

【毎日新聞朝刊 2022/11/25 金言】

法相だった葉梨康弘氏が死刑に言及したのは9日夜である。職務に関し「朝、死刑の判を押し、それで昼のニュースのトップになるのはそういう時だけという地味な役職」と述べた。ジョーク感覚だった。ちようど、その夜、ニューヨークの国連本部では加盟国（193か国）に死刑執行を一時停止（モラトリアム）するよう求める決議案が提出された。決議案の賛成126、反対37（日本を含む）、棄権24で採択された。】

岸田文雄首相は、たびたび内閣改造をこころみている。改造して間もないうちに、次の改造時期が取りざたされる。大臣を入れ替えようとする。留任される人はともかく、短期間で代わってしまうのはどうか。

担当の職務に精通するためにも閣僚の任期は、じつくりと、例えば4年以上続けたらいい、と私は思う。

しかし、現状では平均的に短い。政権がたびたび内閣改造をしていることに関係する。新しい顔ぶれの中に、不適合な人（辞任に追い込まれる人）が何人か紛れ込んでしまっているのも、問題だろう。内閣改造しなければ、そんな人が紛れ込む可能性も少ないはず。

政権与党の議員の中には、大臣になりたいという人が多いのだろう。岸田氏は付度して、あるいは派閥の

圧力を受けて、彼らの何人かを大臣にしてやっているようなものだ。

彼らは、たればホコリが出るものだから、週刊誌であばかれたり、野党に追及されたりする。新しい大臣は、それらの恰好の標的になる。

今般の内閣改造で、4人の大臣が辞めた。辞任の形でやめているが、実質的な更迭だ。

その中で、葉梨康弘法相が辞任に追い込まれた経緯を取り上げてみよう。彼は、余計なことを言って更迭された。岸田派の衆院議員だ。

自民党の衆院議員主催のパーティーで、葉梨法相が、自身の役職について、冗談交じりにボヤいたものだ。

（法相とは普段は注目されない、地味な役職であり、注目されるのは、朝、死刑執行のハンコを押したときに、昼のテレビで大々的に取り上げられることくらいだ）という意味のことを話した。これは場をなごますために、ぼやいてみせたものだろう。そんな話をほかでもしていたというから、彼の得意話であるようだ。

これは基本的には、たわいのない話だ。少々自虐的に、おもしろおかしく話そうとしたものだろうと、私は推測する。笑って聞き捨てたいところだが、政治家

の冗談は、聞き流されないとこがある。

彼は、笑いを取るために「ここだけの話」をした。

外部にリークされるとは考えていなかったはずだ。しかし、まじめな人たちは、いまだに大臣になれない人たちが真に受けて、怒った。「なんだ、こいつ、内容を見ないで、判を押しているだけか？ 大臣になって、お金や票が入ることを期待してたんか？」

「葉梨のヤローが、死刑を茶化していたぞ」などと、取材しに来た記者たちに言いふらしたのだろう。

さらに葉梨氏は「大臣になっても、お金は入らないし、票も入らない」ともぼやいているが、それは違うだろう。大臣になれば、報酬や手当が確実に増額され、何かと優遇されるものだから、実質的にも、お金がたくさん入る。彼自身、思ったよりたくさんではなかったのかもしれない。彼は政治献金もっと増えると思っていたのだろうか。

大臣ともなれば、政治家として箔がつく。単なる政治家から格が一段と上がり、政府の要人として、もてはやされることになる。単なる議員でなく、一定の権力を持つ閣僚なのだ。大臣ともなれば、偉くなったと思われるから、地元の有権者の見る目が変わり、次の選挙では必ず得票が伸びるに違いないのだ。大臣の肩

書きが大きな存在になるのは、これからのことだった。政治家ならば、誰でも「大臣になりたい」と願っているとこだろう。大臣になれなかった者としては、ぜんぜんうれしくはない。

彼のボヤキは、「大臣になっても、不満を持つている」と思われかねない。「コノヤロー、ぜいたくなことを言っていやがる」と、大臣になれない平の議員たちから、反発されそうだ。

岸田派の議員だから、岸田首相にひいきされて大臣になったと思われる。その他の議員たちから、やつかまれた可能性がある。

また、「旧統一教会のやっかいな問題に取り組まなくてはならない」というニュアンスを持った発言もしている。

「ナニ、いやいや取り組んでいるのか？ テメー、旧統一教会を規制することに、気が進まないんか？」

マスメディアは、彼が死刑執行について軽々しく話をしたことに、特に批判的だ。国際的には死刑の判決がされたとしても執行は行われなことが「世界の常識」であることを論じていた。「死刑を執行するのは野蛮国だ」と思われているそうだ。「死刑のハンコを軽々しく押すのであれば、法相の資格はない」と厳し

く断罪した。

⑨ 飯能で3人が殺害された事件

【毎日新聞朝刊 2022/12/27 社会

埼玉・飯能市、12月25日午前7時ごろに起きた3人殺害事件、近所の男性を殺人未遂容疑（その後、殺人容疑）で逮捕。自宅からおのを押収した。】

【毎日新聞夕刊 2022/12/27 社会

飯能・3人殺害の斎藤淳容疑者（40）、被害者の車に傷つけて3回されていたが、黙秘を続けた。

今回の事件でも「言いたくない」】

【毎日新聞朝刊 2022/12/31 社会

被害者「（うらまれる原因に）心当たりはない」】

【毎日新聞朝刊 2023/1/5 社会

容疑者「私はやっていない。身に覚えのない話だ」
押収品の中には携帯電話やパソコンなど外部と通信するものはなかった。】

クリスマスに起きた事件は、まれにみる惨劇となった。夫妻だけでなく、その日に実家に来ていた娘も、事件に巻き込まれたかのように、惨殺された。

その騒ぎに近所の人たちがすぐに気づいたはずだが、各家のドアを閉め、警察に通報するしかなかった。加害者がオノのようなものを振り回し、被害者たちの頭部をめつた打ちにしていたから……。

3人が地面に倒れこみ、動かなくなると、加害者はその家の室内に灯油がまき、火をつけた。まるでホラー映画のクライマックスシーンのような凶行だった。

容疑者は自分の家にもどり、部屋の奥に潜んでいた。警察が駆け付け、しばらくして彼を見つけ出し、逮捕した。その間、消防が手早く火を消し止めた。

取り調べで、容疑者は「言いたくない」と口をつぐんだ。今後も彼はその方針を貫いて、何も語らないまま、謎の事件にしてしまえそうだ。被害者たちにしても、以前の器物破損に関して「なぜ執拗に狙われたのか、心当たりはない」と言っていたという。

「言いたくない」理由として、自分の心の中のことを言っても、他人には理解されないだろうという決めつけがあるのかもしれない。事件の捜査官に対して「言いたくない」と答えると、「なぜ言いたくないのか」としつこく追及されたはずだ。その後、彼はおそらく、もう追及されたくないものだから、「自分がやったことではない。知らない」と、しらばくれるようになって

た。「知らない」ことを聞き出そうとしても、もう埒が明かない。

彼の少年時代は、明るく快活なサッカー少年で、勉強もよくできた、と伝えられる。また、中学時代にいじめにあった、高校時代に両親が離婚したという事情がある。離婚後、父とは会っていない。

（少年時代にサッカーでヘッディングを多用しすぎたのだろうか、と私はふと考えてしまう。ヘッディングは脳にダメージを与えることがあるから）

大阪芸術大学に入学。卒業後、映画制作の道を歩み始めた。若くして、彼の企画が認められ、一本の作品を演出するチャンスをつかんだ。将来を囑望された青年だったわけだ。しかし、彼は完成間近で（クラランクアップした後）すっかり意欲を失い、周囲から惜しまれながらも、結局その作品を完成させられなかった。挫折だった。意欲を失った理由は語られていない。彼に何があったのかはわからないが、それが異変の第一歩だったようだ。

映画作りは監督として、スタッフを引っ張っていくリーダーシップが必要だが、彼にはそれが発揮できなかったか、と私は想像する。自分の思い通りにならない強いストレスがあったか、自分の情熱が空回りし、

いらだちが極限に達した、スタッフたちが引いてしまふほどに……。

それから彼は就職もせず、親の経済的支援を受けながら一人暮らしをしていたとされる。その住居も親譲りのものだった。

この事件の動機は謎のまま、人々は（容疑者が精神的に病んでいたから、常人が理解不能な行為に走った）などと解釈し、半分納得してしまうのかもしれない。確かに病的ではあるが、精神的な病のせいにするにはまだ早すぎる。神経症あるいは精神病と鑑定されたわけでもない。しかし、そんな解釈では、あいまい過ぎる。謎を解くヒントがあるので、さしでがましいが、私はその理由を推測してみたい。

事件の約一年前、被害者宅の車などを何度も傷つけた行為（2021年の夏から2022年の2月まで6件あった）は、容疑者が車に対して強い憎悪を持っていたから、と考えられる。それも被害者が所有していた車に対してだけだ。100万円をかけて修理しても、また傷つけられたという。（その車に対して強烈な憎しみ）を持っていたわけだ。その件について、彼は、器物破損容疑で2022年1〜2月に計3回逮捕されたが、起訴に至らなかった。彼が徹底して黙秘したこ

と、あるいは罪に問えない、何らかの要因（例えば示談成立か）があつたために、警察・検察が起訴をあきらめたのだらう。再発防止のためにも、踏み込んで対処すべきだったケースだろう。

同じ地域の住宅街に住んでいた容疑者と被害者、その住宅は60メートルほど離れていた。比較的近距离にあつたが、隣近所ではない。

私が想像するのは、車に関する恐怖体験だ。以下はその想像だ――

彼は近所の周りをぶらぶらと散歩していた。それが彼の日課になっていた。たまにコースを変えたが、ほとんどいつもの時間いつもの道を……。住宅街の道であり、車道と歩道の区分もなく、車同士がかるうじてすれ違える幅しかなかった。そこに、後ろから車が来た。彼は考え事をしていたから、接近するまで気づかなかつた。彼の横をすり抜けた車を見て、びっくりした。いきなり風圧がかかり、「ブォーン」というエンジン音の轟とどろきとともに車はスピードを上げて走り去った。間近に迫っただけで、接触したわけではなかつたけれど、彼は「危ない、ひかれる！」と思つた。

数日後、同じように彼は住宅街を歩いていたら。また後ろから風圧とともにエンジン音「ブォーン」。走り

去る大きな物体、前回と同じ乗用車だった。

「オレを狙つてやがる！ クソー」 排気ガスも顔に吹きかけられた。彼の心が恐怖から怒りに変わった。

車の運転者は、前方の街路上に黒ずくめの服装の男がゆっくり歩いてるのを見て、スピードを落とした。スピードを落とすと、エンジン音も走行音も静かになる。前を歩く人との接触の恐れに最大限気をつけたから、そつと近づく形になった。運転者は男を追い抜いたことを確認してから、車を加速させた。「ブォーン」

運転者としては、安全運転をしたつもりだった。悪気もなかつた。しかし、その「ブォーン」が、歩行者を恐怖に震え上がらせたことに気付かなかつた。

男は、走り去る車の前席に、男女が談笑している様子をちらりと見た。まもなく、その車が近所の住む人の所有であること、走り去った車を運転していたのがその家の外国人男性であり、助手席に乗っていたのがその妻であることを知つた。

「クソー、オレを怖こわがらせて、喜んでやがる！ そんなに楽しいか、テメーらは車に乗っているから、絶対安全だろうよ」

嫌悪感が増幅した。この体験は、強迫的な強いトラウマとなつていつまでも消えなかつた。彼はもう散歩

にも、おちおち出られず、家に閉じこもる生活が続いた。恐怖の存在が60メートル先にあった。(そうだが、あの車を傷つけてやれ!)

刃物で車体を傷つけた。「コノー、コノー、こやつめ!」ギーキー、ガリガリ、ゴリゴリ

ずたずたにしたつもりだったが、しばらくして車は修理されて戻ってきた。それを6回繰り返し返したが、それでも彼の恐怖心は消えなかった。「このままだと、オレをまた襲ってくる!」

2020年12月、(車でなく、運転していたヤツらが根源なのだ。そうだ、あの一家を殺さないといけないんだ!)

⑩ ロシア、ダリア・ドウギナ氏爆殺事件

【毎日新聞朝刊 2022/8/22 国際

プーチン氏に影響を与えたとされる思想家、アレクサンドル・ドゥーキン氏の娘ダリア氏が爆死した。2人は郊外でイベントに参加、2人は乗用車でモスクワに帰宅する予定だったが、急遽変更となり、ドゥーキン氏は別の車に乗った。爆発でダリア氏の運転手も死亡した。】

【毎日新聞夕刊 2022/9/23 総合

ロシア思想家の娘爆死、ロシア当局「実行犯はウクライナ人」と特定。最初からダリア氏を狙った殺害計画だった可能性があると伝えた。

ウクライナ「ウクライナは全く関係がない。我々はロシアのような犯罪国家ではない」

ドゥーキン氏はダリア氏の車に同乗する予定だったが、直前に計画を変更したという。】

【毎日新聞朝刊 2022/8/24 国際

ロシア思想家の娘爆死、ロシア当局が「ウクライナが実行」と特定。ロシア・タス通信は「実行役は車内にドゥーキン氏がいないことを知っていた」とロシア捜査当局の見方を報道。最初からダリア氏を狙った可能性があると伝えた。実行犯は1979年生まれ、ウクライナ国籍の女性で2010年生まれ、娘とともに今年7月23日にロシアに入国した。事件当日の8月20日に2人はダリア氏がゲストとして出席したモスクワ郊外でのイベントに参加、乗用車に爆薬を仕掛け、遠隔操作で爆発させたとみられる。2人は21日、車でエストニアに出国した。】

【毎日新聞朝刊 2022/10/7 国際

ロシア思想家の娘ダリア氏爆殺、ウクライナが関与か。

主な標的はドゥーキン氏だったとする。】

【毎日新聞夕刊 2023/1/4 総合】

今年（2023年）の、世界を危うくする「10大リスク」、米調査会社の報告書によると、1位がロシア。「世界で最も危険なならず者国家」とする。2位、習近平。3位、人工知能などの技術革新。】

2022年8月、モスクワ郊外での講演会の帰り、車に仕掛けられた爆発物によって、ダリア・ドゥギナ氏が爆殺された。これは、〈プーチンに近いとされる高名な思想家のアレクサンドル・ドゥーキン氏の暗殺を狙った未遂事件だった〉と一般的に考えられた事件だ。彼は、娘のダリア氏と同じ車で帰る予定だったから、彼も爆発に巻き込まれた可能性が大きい。彼は直前になってその車に乗らなかつたから、無事だった。

ロシアは、事件の直後に、確実な証拠をつかんだかのように、ウクライナ側の仕業だと断定した。〈車に爆発物を仕掛けた実行犯の女二人は車でエストニアに逃走した〉とまで言い切っている。それを間近で観ていたかのようなコメントではないか。そんな怪しい者たちがロシア領内から、すんなり逃げ出せるとは、警察や国境警備がよほどズボラだった、と言わなければな

らない。

この事件は、ロシア側が「ウクライナはテロ国家だ」と言いふらすのにちょうどいいネタになっている。ロシアのウクライナ侵攻中の出来事であり、これはプロパガンダの可能性が高い。

陰謀が渦巻いている。誰がやったのか、よく分からない事件が相次いでいる。ロシア側は、すべてウクライナのせいになっている。ロシアは「すべてウクライナと、その後ろにいるNATOが悪い」と主張する。事件や問題を起こしては、責任を転嫁するやり方は、ロシアの得意とするところだ。

ロシア側から「ウクライナが最初からダリア氏の命を狙った」とする説が出たのだが、ウクライナがモスクワ近郊で、暗殺事件を起こすのはリスクが多すぎるし、その動機が見当たらない。むしろ、私は「ロシアが最初から、反体制的なダリア氏の命を狙った」可能性があると考える。テロ行為に関して、ロシア側には、ウクライナに罪を擦り付けたいという動機がある。むしろ、ダリア氏の言動が、ロシア政府にとって不都合になってきたとも考えられる。それでウクライナのせいになれば、一石二鳥のことだったろう。

父親のアレクサンドル・ドゥーキンの方が、プー

チンに近い人物と目されていたから、ウクライナの標的になったと考える向きもあるのだが、たとえ彼が暗殺されたとしても、プーチンにとつてその死は、痛くもかゆくもないことだろう。もしも彼が亡くなったとしたら、プーチンは彼を亡師として死を悼む姿を国民に見せつけたりして。

特定の人物に毒をもったり、射殺したりするのは、プーチン政権がしばしば行ってきたことだ。もちろんプーチンが手を下すわけではない、プーチンは指令を出すだけだ。

ロシア当局はすぐにウクライナの情報局が関わった事件と断定したことに、逆に疑問が生じる。ロシア側は、ウクライナ人の実行犯がドゥーキン氏が乗ろうとした車に爆発物を取り付け、遠隔操作で爆破させたと見てきたことのように主張した。あらかじめ、犯行の詳細がわかっていたかのような反応だ。〈実行犯はドゥーキン氏が車に乗らなかつたことを知っていたのに、爆破させた〉と主張した。しかし、ウクライナ側が、ドゥーキン氏ではなく、ダリア氏を殺害する動機は何だろうか。何も考えられないことだ。

そもそも、彼らが爆発物を持ち込み、専任の運転者がいる車に仕掛けることが現実的にできるだろうか。

犯人たちが、監視の目を盗み、すり抜けて、やすやすと実行できたことが奇跡的だ。彼らは、逃走にも成功している。長距離をさつさと車で移動し、隣国に逃れた。指名手配されないまま、検問にもパスしたことが不思議だ。ロシア側の演出なくしては、あり得ない。

ドゥーキン父娘が車ごと爆破される計画が、事前に治安当局者たちに知られていた、と考えたい。そして私は、娘が見殺しにされたのは、ドゥーキン氏と娘の関係がよくなかったためか、と憶測する。

ドゥーキン氏は娘に言われていた「お父さん、あんなプーチンに味方するのはやめなさいよ。今度の特別軍事作戦だつて、ウクライナの領土が欲しいから、その住民たちを追い出して、自分のものにしようとしているだけじゃないの。彼はロシアの領土を拡張した英雄たちの一人になりたいのよ。彼は世界一の嫌われ者、危険な男だわ。権力者が暴走した一例になつてしまっている。平気ですそをつき、多くの人をだましてきた。わかっているの？ 一人よがりの、迷惑ものよ。裁かれたら、A級戦犯になるでしょうよ。国民から戦争の反対の声や強権的な政権に異を唱えれば、徹底的に鍛圧し、抑え込んできた。過去に核兵器をウクライナから取り上げておいて、今になってそれを使うぞ、

と脅している卑怯な男よ。もう片棒担ぐのはやめて！
彼がやってきたこと、わかっているの？ 選挙では選

挙管理委員会とグルになって不正をやりまくって、投票数をごまかし、結果を捻じ曲げてきたし、国民の政
権批判には全然耳を傾けない。反対するリーダー的人
物たちには、口封じのために、暗殺を命じてきた。彼
は狡猾で、冷酷で、自分勝手な人間なのよ。自分の野
望の達成のために、人が何人死んでも、傷ついても、
苦しんでも、恐怖に震えても、平気な人なのよ。ライ
バルを蹴落として、大統領に成り上がった。そして勝
手なことをしている。何もかも自分の都合のいいよう
に変えてきた。憲法さえ、彼の都合に合わせて変えて
きた。自分のためにロシアを踏み台にしてきた。ロシ
アの人々、特に政治にかかわる人たちは、プーチンが
大統領に一番なつてはいけない人物であることを見抜
かなければいけなかった。お父さんは見抜けないの？
彼に近づくものは、オリガルヒのような連中よ、権力
の傘の下で私腹を肥やしてきた人たちよ。お父さんも
その一人になりたいの？ そんな指導者がいるから、
世界の人に（ロシアはならず者国家だ）と思われてし
まうのよ。ヨーロッパの国々は、ロシアからエネルギー
ーや食糧入手が困難になるのを顧みず、ロシアに対し

て制裁に踏み切っているのよ」などと、なじられてい
たりして……。

帰りの車の中で出発を待つとき、父と娘が口論にな
った、と私は想像する。娘にやり込められてしまった。
親としてのメンツと、高名な思想家としてのメンツが
つぶされて、ドゥーキン氏は立腹した。プーチンの悪
口が止まらなくなった娘に対し、ふてくされたように、
「もういい、オレは別の車で帰る！」

ドゥーキン氏は車の爆破から、たまたま逃れたのか
もしれない。ドゥーキン氏は車が爆破される恐れがあ
るとは知らなかっただろうし、もし知っていたら、自
分だけ助かるうとはせず、車から娘と一緒に降ろした
はず、と考えたい。

何も知らないドゥーキン氏は出発直前になって、事
情を知っている公安当局者から「ともかく、別の車で
帰るように」と、促されたという説も考えられる。そ
の当局者は、上層部から、爆殺するのはダリア氏だけ
でいいという指令を受けていた……

⑪ プーチンは核兵器で威嚇する

【毎日新聞朝刊 2022/3/17 総合】

プーチン大統領は、西側の経済制裁への対策会議で欧米志向の市民を、スパイを意味する第五列、裏切り者と呼び、「西側諸国は第五列を使ってロシアを破壊しようとしている」として、国内の締め付け強化を示唆した。ウクライナで生物兵器や核兵器の開発が進んでいるなどとする自説を展開し、ウクライナへの「特別軍事作戦」を正当化した。」

【毎日新聞朝刊 2022/6/27 国際

プーチン氏、核搭載可兵器「イスカンドルM」をベラルーシに数カ月以内に供与。ウクライナ侵攻を巡って結束するプーチン氏とルカシェンコ氏は、核戦力をちらつかせて欧米を威嚇する。

ルカシェンコ氏はリトアニアがロシアの飛び地カリーニングラード州とロシア本土を結ぶ鉄道輸送を制限したことに触れ、「宣戦布告に類似している」】

【毎日新聞朝刊 2022/6/30 本語

ロシアがベラルーシと核共有、ルカシェンコ大統領の要請で。ベラルーシの戦闘機に核兵器を載せることと核ミサイルの「イスカンドル」を供与することをプーチンが表明した。」

【毎日新聞夕刊 2022/10/28 総合

ロシアの核戦力部隊が演習。プーチン氏がウクライナ

の「汚い爆弾」に言及。】

【毎日新聞朝刊 2022/11/4 国際

ロシアが核戦争回避を呼び掛け、米英仏をけん制した。」

【毎日新聞朝刊 2022/11/20 本語

ロシアのプーチン大統領が核使用も辞さない考えを示した中で、NATOが核兵器に対処する軍事演習を始めた。「子供たちにお別れ」か。】

【毎日新聞朝刊 2022/11/20 社会

森喜朗氏また持論、パーティーでゼレンスキー大統領批判「氏はウクライナを苦しめている」、「ロシアが悪く、ウクライナが善だというのは公平ではない。先に手を出したのが悪いが、原因を作ったものにも一抹の責任がある」、「このままやっつけていけば（ロシアが）核を使うことになるかもしれない。プーチンにもメンツがある」】

【毎日新聞朝刊 2022/11/30 国際

ロシアとカザフスタンの首脳が会談し、核戦争を否定する宣言文に署名した。「核戦争に勝者はおらず、決して起こしてはならない」と強調した。】

【毎日新聞朝刊 2022/12/9 国際

プーチン大統領「核戦争が起ころう」脅威は増してい

る。我々にとって大量破壊兵器や核兵器は防衛手段である」、戦術核について「米国が欧州の国々に配備しているが、我々ほどの国にも移してはいない」、米国やNATOが核戦争の脅威を高めているとの見解を繰り返した。」

【毎日新聞夕刊 2022/12/9 一面

ロシアが南部ザポロジエ原発に複数の多連装ロケットを配備したと表明した。

原発を盾にする形でドニエプル川西岸のウクライナ側拠点を攻撃する可能性がある。」

【週刊現代 2023/1/14, 21号

プーチンの切り札、悪魔の兵器「サルマト」発射のXデー、開戦1周年で「最凶」核ミサイルが撃たれる(可能性がある)】

プーチン大統領が「そのうちオレは核兵器を使うぞ!」と言いつらしている。常軌を逸している。

2022年2月24日から始めたウクライナへの

「特別軍事作戦」が、長期化し、ウクライナ東部・南部に侵攻したロシア軍の占領地域の一部が、ウクライナ軍側に押し戻されている状況がある。戦況の劣勢に、プーチン大統領自ら戦略を画策し、非常手段に訴える

ことを始めた。

そして彼は「西側の攻勢により、ロシア領土とその人民を守るため、核兵器を使わざるを得なくなったのだ」という言い訳を用意する。11月のカザフスタン首脳との、核戦争を否定する宣言文にしても、建前を強調しただけだろう。「オレは核を使いたくないんだ」というスタンスを取りながら、使うときになれば、「やむを得なかったんだ」「使わざるを得ない状況を作ったのは西側だ」と言い訳をするつもりだろう。

そもそも、ウクライナは核を持っていないから、核を撃ち合うような戦闘にはなりえない。

プーチンが核をちらつかせるのは、ウクライナ側の反転攻勢に対する強い牽制でもある。

核兵器は、核攻撃の抑止力(究極の自衛手段)として保持することを、核保有国同士が認め合っているものであり、非核保有国に対して、それを脅しに使うのは、人類として「禁じ手」であり、汚いやり方(脅迫そのもの)だろう。

相手が核保有国であろうとなかろうと、先制攻撃に使ってはならない兵器だろう。

特別軍事作戦でウクライナの東部と南部に侵攻し、占拠した地域が、ウクライナ軍の攻勢により奪い返さ

れる可能性が出てきたことから、プーチンとしては、
忸怩たる思いがあるはずだ。(ロシア軍の弱さが世界
に露呈してしまった。こんなはずではなかった)

悔し紛れに核を使う可能性が出てきた。

しかし、プーチンが核兵器を使えば、ロシアの歴史
的な汚名になるだろうし、プーチンはヒトラーより
「ひどい男、狂気の独裁者」として歴史に名を残すこと
だろう。

核を使う前に、「汚い爆弾」をロシアが使うのかわし
れない。ロシア側から、「それをウクライナが使う用
意をしている」と主張した。西側の見解では、ロシア
が使うとしてしていることの「前触れ」だとする。

「汚い爆弾」とは、放射性物質を撒き散らす爆弾だ。
ウクライナが「汚い爆弾を持っている」という根拠があ
るのだろうか。

ロシアがウクライナ領内で使えば、後々まで汚染が
残るだろうから、やっかいだ。

ロシアが多用している「偽旗作戦」の一つだろう。

要は「フェイクニュース」だ。フェイクニュースを流
すのも、ロシア側の作戦の一つであり、ウクライナが
持っていることにして特別軍事作戦を継続するための
一つの口実としたいのだろうか。

⑫。ペロシ訪台で騒ぎまくった中国政府

【毎日新聞夕刊 2022/8/1 近事片々】

米下院議長のアジア歴訪に台湾明記されず。「火遊び
すれば身を滅ぼす」という中国習近平氏の警告が効い
た？」

【毎日新聞朝刊 2022/8/3 一面、国際】

米議長、訪台、中国反発「断固として対抗措置をとる」、

「中国人民解放軍は決して座視しない」

「ペロシ氏の台湾訪問は明らかに危険で挑発的な行為
だ」】

【毎日新聞夕刊 2022/8/3 一面】

米下院議長ペロシ氏が蔡英文氏と会談。中国「重大な
挑発」と強く反発。】

【毎日新聞朝刊 2022/8/4 総合】

中国、今日から台湾を取り囲む区域で軍事演習。中国
軍機21機が台湾の防空識別圏(AIDIZ)に進入。】

【毎日新聞夕刊 2022/8/4 総合】

G7外相が、中国の反応は「緊張を高め、地域を不安
定にする危険がある」と批判した。】

【毎日新聞朝刊 2022/8/5 一面、総合】

台湾周辺の日本のEEZ内に弾道ミサイルを発射5発。中国軍事演習、範囲拡大。台湾を包囲、封鎖を見据える。」

【毎日新聞朝刊 2022/8/6 国際

中国の脅威、圧力、強硬姿勢。台湾の領海に相当する区域にまで演習区域を広げ、弾道ミサイルを撃ち込む台湾は粛々。(中国に)反発の財界人が国防用130億円寄付。】

【毎日新聞夕刊 2022/8/6 近事片々

怒り散らす姿勢を誇示する中国、脅しては根本的な解決にはならない。「短気は損気」という言葉もある。」

【毎日新聞朝刊 2022/8/9 国際

中国演習、連日「中間線越え」中間線は事実上の停戦ラインとみなされてきた。異例の動き、常態化か。」

【毎日新聞朝刊 2022/8/11 国際

ペロシ米下院議長、訪台後、初インタビュー、習近平国家主席について「おびえたいじめっ子のように振る舞っている」と批判した。「中国の国家主席は米議員らが訪台するかどうか判断すべきでない」「習氏は不安定な立場にある」と指摘した。台湾を孤立させることに加担しないとの訪台理由を話した。」

【毎日新聞朝刊 2023/1/1 一面、総合「平和国家はど

こへ」

中国の台湾侵攻に備え、日台に軍事連絡ルートを水面下で構築、現場同士通話。」

【毎日新聞朝刊 2023/1/3 総合

中国、王毅氏が外交トップになった。中国の強硬路線が続く。王氏は文書で、2022年8月のペロシ米下院議長の訪台を批判し、台湾問題を「中国の核心的な利益の中の核心」にかかわると強調。「超えてはならぬレッドラインがある」と米国に警告した。」

中国政府が、台湾の領有にこだわっている。近年、その意欲をますます強めている。

「ペロシ氏の台湾訪問を危険で挑発的な行為だった」と中国側が言い張り続けているが、そのどこが危険で挑発的なのか、理解に苦しむことだ。台湾近辺で、大々的な軍事演習するほうが、よほど危険で挑発的だ。

中台中間線を越えて軍用機が飛来する。「ほれほれ、撃ってみろよ! 撃たんか、腰抜けヤローめ!」と台湾を挑発する。台湾側は挑発に乗ったら、中国軍が一斉に攻撃してくるだろうことはわかっており、領空・領海が侵犯されようが、警告発射も自重し、頭を低く

して耐えていたに違いない。

一触即発の緊迫感が、中国の大規模な軍事演習にあった。台湾の後ろにアメリカがいようと、ものともしない。騒乱の軍事行動だった。軍事演習は、ケンカをふっかけるような、挑発的行為だった。おとなげない国だ。

ちよっとしたきっかけで騒ぎ立てるのは、中国の習いだ。今回の騒ぎは、中国の台湾政策が米国に邪魔されたくないという強い意思があった、と私はみる。

中国の台湾侵攻が、これでますます現実のものになりつつある。そして、中国は、尖閣諸島は台湾の一部だと主張しているから、台湾侵攻すれば、ほとんど自動的に、尖閣諸島にも軍を進めることだろう。尖閣諸島が実効支配されることが目に見えている*1。

政権を掌握する習近平が、日本のEEZ内にもミサイルを打ち込むことを許可したことが伝えられるなど、習の意向が強く反映したのが、今回の大規模演習だろう。中国軍部が、習氏を差し置いて勝手に動いているのではなく、かなり細かいことまで、習氏にお伺いを立てている様子が伺える。

この演習では、台湾を取り囲むように、複数の演習域を一方向的に指定し、実弾訓練を行った。ミサイルを、

台湾上空を飛び越え、訓練海域に打ち込むという「暴挙」をやって見せた。やりすぎというべき挑発行為だ。

ペロシ氏と蔡英文氏が会談したことで、アメリカと台湾の親密な関係を見せつけられ、中国は嫉妬の炎を燃え上がらせた、かのようだ。

習近平へ台湾はオレの女だ。アメリカ野郎どもに、ちよっかいを出されてたまるか！

事前に強くけん制するメッセージを発信していたのに、無視されたことの苛立ちもある。中国政府のメンツがつぶされた形でもある。

ペロシ氏は、外交儀礼的に、アジアの複数国を訪問し、訪問先に台湾を入れたことで、中国が動いた。ペロシ氏の訪台は、大して影響力のあるものとは思えないところだ。それで、中国にとって何の不利が發生するのか。

表敬訪問のようなものであり、外交辞令の言葉を交わすだけだろう。密約するためではないだろうから、中国が怒りまくる必要はない。しかし、中国はそれを「アメリカの強烈な挑発行為だ」と、おおげさな屁理屈をつけた。中国を大いに刺激したことになる。

ペロシ氏自身、自分の訪台で中国がこんな反応を示すとは、思いもよらなかつたようだ。

中国共産党幹部の間には「台湾を制圧しないことには、中国は国家として完結しない」という思いが強い、と私はみる。中国にとって、台湾を領有することは、積年の悲願である。

習「オレの任期中に、『二つの中国』をやり遂げたい。台湾のやつらには、圧倒的な軍事力を見せつけてやる。特別軍事作戦を開始すれば、やつらはすぐに白旗を上げればなるまい」

中国にとって、台湾を侵攻するきっかけが欲しいところだ。単に先制攻撃をしたのでは、国際的な反発を招きうる。

中国の我が物顔の軍事演習に対し、台湾は手も足も出せない。台湾は領空・領海を侵犯されても、じっと我慢するしかない。

軍事演習だとわかかっていても、心穏やかに静観できるものではない。かつて1941年12月、アメリカ軍は日本の大艦隊の接近を探知していたけれど、「軍事演習だろう」と高をくくっていたら、本物の奇襲だったわけで、アメリカ軍にとっては悔恨の歴史の1ページになっっているし、今回のロシアによるウクライナ侵攻でも、軍事演習という当初の名目で、大軍を集結させていた。

そもそも、中国は、台湾の領空・領海を認めていない。すべてじぶんたちの「固有の領土」とするのが、「二つの中国」の基本的考えなのだ。

外交上、アメリカも日本も「二つの中国」を認めざるを得ない。台湾を一つの独立国家だと言うことはできない。でも、台湾という「地域」に自治政府が存在している。

アメリカはこの民主的な自治政府を守りたい。台湾が中国の支配下に入ってほしくない。

アメリカの艦船が南シナ海・東シナ海を航行してみせることがあるのは、そのデモンストレーションの一つだろう。

習「自由の航行作戦だと？ シャラクセー、台湾海峡には、潜水艦をうようよ配置しているというのに、いい度胸だな」

*1、そもそも尖閣諸島は、日本の固有の領土だとするには、やや根拠が足りない。人が住んでいないような島だから、経済的にも取るに足らない。日本がその領有に固執し、その防衛のために相当な予算を使う意味があるとは思えない。領有権を放棄する代わりに、何か見返りがあればいい。

「こんな群島、欲しけりや、あげましよう。ノシ（条件）つけて……」

⑬ 台湾海峡、波高し

【東京新聞 2022/1/3 国際】

台湾、蔡英文総統が談話を発表、「中国の習近平指導部が軍事的圧力を強化している」と非難した上で、「軍事では兩岸の隔たりは決して解決できない」「自由と民主主義を国際社会とともに守る」と強調した。】

【毎日新聞朝刊 2022/1/5 国際】

台湾と関係強化のリトアニアへ中国が報復を本格化させている。輸入停止、EUに飛び火。】

【毎日新聞朝刊 2022/5/25 一面】

ウイグル公安ファイルに「逃げる者は射殺せよ」

共産党幹部の発言記録や収容施設の内部写真や2万件以上の収容者リストなど、数万件の内部資料が流出した。イスラム教を信仰するウイグル族らを脅威とみなす。30年前の行動を理由に拘束もしていた。】

【毎日新聞夕刊 2022/5/27 総合】

プリンケン米国務長官が演説、「中国が最も深刻な課題を突き付けている」「中国共産党は国内でより抑圧

的に、国外でより攻撃的になっている」、台湾について「（アメリカは）独立を支持しない。平和的に解決されることを期待する」】

【毎日新聞朝刊 2022/5/28 国際】

中国、新疆公安ファイル、収容者制圧訓練の写真など収容施設での拘束・尋問など3分44秒の動画。「逃亡許すな」狙撃銃所持の警察官。「教育」を名目にした強制的な収容であることがわかる。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/20 国際】

バイデン大統領、中国が台湾に侵攻するなら、米が防衛することを明言。】

【毎日新聞朝刊 2022/10/17 一面、総合、国際】

中国共産党大会開幕、習氏は3期目に自信。

「祖国の完全統一は必ず実現しなければならず、必ず実現できる」と力を秘めた。】

【毎日新聞朝刊 2022/10/22 国際】

米海軍幹部「中国の台湾侵攻は今年や来年にも（実施されるだろう）」】

【毎日新聞朝刊 2022/10/23 一面】

中国、共産党大会閉幕、習氏（69）3期目の国家主席確定。中央委員（204名）の名簿にナンバー2の李克強（69）の名はなかった。最高指導部の政治局常務

委員（現在は7人）、習氏が推進する格差是正策「共同富裕」の文言を党規約に盛り込んだ。また「台湾独立を食い止める」との言葉を加えた。」

【毎日新聞朝刊 2022/10/24 一面、クローズアップ
最高指導部の政治局常務委員は習氏を含み7人。習指導部、側近で固め始動。忠誠第一、異論排除。軍事委、台湾を念頭に布陣。】

【毎日新聞朝刊 2022/10/28 総合

中国共産党規約「台湾独立に断固として反対し、押さえ込む」という文書が盛り込まれた。」

【毎日新聞朝刊 2022/11/16 国際

バイデン氏は、台湾を領土とみなす中国の立場に異を唱えない、「一つの中国」政策を堅持すると述べた。

習氏は、台湾問題は中国の核心的利益の中の核心だ」と強調し、中米関係の最初のレッドラインだ」と譲歩しない姿勢を示した。】

【サンデー毎日 2022/12/18-25 News Clip

ゼロコロナ政策に不満爆発、白紙に透ける「知恵と勇氣」印刷物から放送、果てはSNSまで徹底した検閲を行ってきた中国共産党。これまで怯えて口をつぐんできた市民たちが勇氣を振り絞って「共産党退陣」「習近平辞める」と訴えた。圧政に苦しむ民の強い決意が白

い紙に込められているようだ。】

0、はじめに

中国が台湾海峡でさかんに波風を立てている。中国軍が台湾に侵攻することをあからさまに示唆しています。まずまず、台湾有事が現実味を帯びている。米海軍幹部などは今年や来年にも起こりえることを、自信を持って言い切っている。武力侵攻も辞さないというから、中国政府の台湾に対する執着ぶりがすさまじい。

ただし、これは武力で圧倒する姿勢を見せて、台湾政権を平伏させることで、無血開城させる意図も見える。それが一番平和的な解決かもしれない。

中国政府は（それがもう待てない）という姿勢をみせている。なぜそこまで中国政府が台湾領有にこだわるのか。

1. 中国共産党大会での決意

国家主席・習近平氏は、独裁者の顔つきで、台湾を領有することを高々と宣言している。政権が、台湾を領有することに本格的に計画してきたし、習近平が近いうちに台湾を従属させることを宣言している。公約にしているほど、習近平は、やる気満々になっていることが、昨今のニュースで分かる。武力行使も辞さな

い構えであることは、多くのメディアで指摘されていることだ。ペロシ氏訪台の時の、大規模な軍事演習が、その前触れだろう。中国が台湾を併合するかどうかは、習政権の思惑ひとつに大きくかわっている。習氏は、中国を一つにした英雄として歴史に名を残すかもしれない。いつ実行するか、という時間の問題になっている。それは習氏の一存だろう。ただし、彼の独断専横ではなく、共産党の規約・方針に基づいた「指導部の総意」の形で決行しようとしている。

今回の党大会で、習氏のイエスマンばかりが幹部に選ばれた。以前は女性も一人いたのだが、排除された形だ。習氏の意向に反するような言動をしそうなものはいない。習氏は独裁的な体制を築いた。因習にとられず、台湾侵攻に向けての、実用的な体制を整えたわけだ。彼の威信をかけての、勝負の時なのだ。偉大な指導者として、実績を残したい思惑がある。もう、中国国内では、台湾進攻に反対するものなど、一人もいそうにない。習氏がこの十年間で、着々と独裁体制を築いてきた集大成だろう。

2. 台湾人の意向

台湾の人々が、武力衝突も辞さずに、現状を守りたいとなれば、兵力の差が歴然だから、大きなリスクを

背負うことになる。もしも、独立派というべき蔡政権が交代し、親中派の政権になれば、武力衝突もなく、スムーズに事が運ぶかもしれない。台湾が中国の武力の前に、ひれ伏す形だ。最近、その可能性が出てきた。台湾の地方選で、与党が大敗し、親中派の国民党が躍進しているからだ。台湾の自主独立気運が盛り上がりがない。

中国の圧力は大きい。台湾の独立派の人にとっては、その締め付けの強さが、身に染みて感じられているはずだ。このままいくと、確実に中国化される。それでいいのだろうか。

2. 歴史的背景

その昔、中国・清朝が台湾を領有していたことは確かである。日清戦争の終結の交渉において、「台湾は要らない。日本がもらってくれ」とでも言うように、日本に割譲した経緯がある。つまり、中国にとって台湾の重要度は低かった。

習近平が台湾侵攻にこだわるのは、〈中華民国から中華人民共和国への「バトンタッチ」が完遂していないから〉という理由があるだろう。

そもそも、清朝を打倒した辛亥革命後の1912年に、中華民国が建国された。清朝の後継政府として確

立し、国民党が政権を握った。

1949年、蒋介石らの国民党は、毛沢東が率いた中国共産党との内戦で敗退し、台湾に逃げ込んだ。毛沢東は、大陸側で中華人民共和国を建国した。

蒋介石らの国民党は、台湾を強引に支配下にして政権を確立した。それが現在に続いている。つまり、中国では政権が交代したのではなく、併存しているという見方もできる。

国民党政権は、1988年に李登輝が総統になると、自主独立色を帯びてきた。さらに、台湾人主体の民進党が台頭し、与党になると、さらに独立志向を強めた。自ら「中華」を「台湾」に置き換えてもいる。

その中華民国の残党がいまでも存続しているのは、中華人民共和国の正当性（あるいは正統性）に疑いを挟まれてしまう心配がありそうだ。

中華民国が中国本土の統治権を中華人民共和国に、合意の下で、あるいは合法的に譲ったわけではなく、単に内戦の武力決着だったとなると、後者の立場として、まずいのだ。中華人民共和国の正当性を主張する（内外に中国の唯一の政権と自他ともに認めさせる）ためにも、名実ともに、台湾政府をつぶさなければならぬという思惑があるのだから。

台湾政府を「中華民国」を名乗ることや、他国がそう呼ぶことを、国際社会に圧力をかけて、すでに踏みつぶしている。しかし、台湾政府の存在は、中国共産党としては、目ざわりだろう。中華を継承する唯一の政権であることを確立したいし、その正統性を証明したい。「二つの中国」があつてはならないということだ。どっちが正統な政権なのかと疑われてしまう。

中国共産党としては、正当性を疑われたくない。疑われたら、人民の支持を失いかねない。

名実ともに唯一の政権でありたい。意地でも「中華民国」と名乗っていた対抗勢力の政権の存在をつぶしておきたい。台湾を併合・吸収することで、唯一と言えることになる。それが「核心中の核心」という言葉で表されている。中国共産党にとつての核心であり、それが体制の根幹にかかわるものと考えているのだから。人民にとつては、どうでもよいことだろう。

3. アメリカの介入はあり得るか

先日、バイデン大統領は（中国が台湾に侵攻するなら、アメリカが防衛する）と表明したが、それは牽制だろう。本格的な戦闘はしたくないというのが彼の本音だろう。一つの中国を容認するアメリカに、台湾を防衛するほどの「義理」があるとは思えない。そんなバ

イデン氏に対し、習氏は、「アメリカが台湾問題に踏み込むのは、レッドラインを超えることだ」と強く牽制した。アメリカが台湾海峡で軍事介入しようものなら「今度は許さんぞー」と、脅しをかけた、と私はみる。アメリカが参戦するようなことにはならないだろう。

有事において、中国側からの猛攻撃により、台湾軍はすぐに壊滅するだろう。事が起きてからは、アメリカ軍が支援する余裕はないだろう。

4. 台湾人の帰属意識

台湾は中国にいつめられてきた。台湾に国民党の連中が逃げ込んできたときから、そのいつめが続いている。1949年12月に中国国民政府が台北を首都とし、1950年3月に蒋介石が国民政府総統に復帰した。このあたりで、台湾は実質的に独立した国家として歩みだしている。もちろんそれは、共産主義嫌いのアメリカのバックアップがあつてのことだった。そのいつめ（軍事的圧力や嫌がらせ）もなくなるなら、中国に恭順することは一つの賢い方策かもしれない。

一つの中国になることは、貿易障壁や人の往來の制限が緩和されるだろうし、経済的なメリットが生じるだろう。しかし、それからの台湾の人は、共産党支配という強固なパワハラを受けることになる。台湾人

がかつて国民党政権から受けた圧政よりも、それは強いかもされない。中国政府の強権的な政策の数々が押し付けられることは必死だろう。台湾に住む人は、台湾人としてではなく、中国人として生きていくことを強いられる。香港の例のごとく、中国化される。台湾人としてのアイデンティティはなくなると思わなければならぬ。それでもよければ、「一つの中国」になることだ。台湾の人々が納得するなら、それでよいことだろう。台湾が習近平政権に従属させられ、中国化が推し進められるとき、住民がそれに我慢できるかどうか、が問題になる。

中国では、体制の維持が最優先であり、政府幹部の体裁や体面が損なわれることは、徹底的に避けられる。この体制が変わることは、将来的にもほとんど望めない。人権よりも体制が優先される国だ。批判もできない。政府は人民を統制する機関に他ならない。大国には一つの国として取りまとめる大変さがあるにしても、強権的だ。体制は、人民のためにあるものではなく、支配する側の権力者のためにある。人民は「おとなしい羊たち」として飼いなされる。政府の方針に人々を従わせようとする力が半端ではない。自主性の強い台湾の人々には抵抗のあることだろう。

中国政府の強権ぶりがすさまじいことを理解すべきである。人々の自由も人権も尊重されない。それでもよいなら、台湾は中国政府の支配下に入ろう。もし台湾の人がその独立や主権を保ちたいのなら、今のうちに叫ぶ必要がある。台湾人の「心意気」を示したい。中国の軍門に下れば、もちろん、それはできなくなる。「習のヤツの顔^{ツラ}など、もう見たくもないよ！」（統一が達成されたとき、台湾の町中に習氏の写真が飾られたりするだろう）などと心の中で叫ぶしかない。

以下に「中国化」の要点を箇条書きする。

・人々の行動（自由）を制限する

真に自由な行動は望めない。国内とはいえども、移動は制限される。国内ならば、どこへでも行ける、どこにでも住めるというわけではない。人々は難民となつて国外へ逃げることも難しい。不審人物とみなされれば、些細な口実で拘束される。当局の言い分を認めないと、長期間留め置かれる。自供が証拠として重視される。観光のつもりで市内の写真を撮りまくっていると、「デメーが写真を撮っていたのは軍の施設だ。デメーはスパイだろ」とスパイにされるかもしれない。

新疆ウイグル、チベット、香港の例を見るように、政府に反対を唱える人たちがいれば、力で抑え込む。

取り締まり、抑圧、弾圧、強制執行……。政治運動など、国家転覆を図ったとして重罪に処する。収容所や刑務所送りになっている。

民主化を要求するデモなど無理であり、叫ぶだけ無駄なことだろう。力で抑え込む。ことによつては、人々に銃口を向ける。ただし、公認されるデモもある。それは政府によつて扇動されたプロパガンダ的なデモばかりだ。尖閣諸島の領有問題が注目されたとき、わざわざらしい反日デモが起きたことは、その一例だろう。

近年、香港で行われた選挙など、形だけになっていた。政府に不都合な党派や人物は、立候補さえできなかった。

公共事業でも、人民の立ち退きが必要なら、強引に押し進める。ごね得など許されるはずがない。対象の家屋は、人がまだ住んでいようと、ブルドーザーで押しつぶす。

基本的に政府は、住民がいくら騒ごうと、強力な治安部隊を送り込めば、制圧できると見ているだろう。それは新疆ウイグルでも、香港でも、実証されたことだ。政府に反対するものがあれば、拘束して収容所へ送り込む。強大な武力・腕力を見せつけ、人たちに、

お上に逆らえないことを徹底させる。

「オレたちに逆らうと、どうなるか分かっているだろうな、チベットや新疆ウイグルのように、どいつもこいつも収容所にぶちこんだる！」という習氏の怒声が聞こえてくる。

ただし、2022年11月、中国全土に広がった反コロナ政策デモでは、中国政府は譲歩した。「共産党退陣」「習近平辞める」という叫び始めた中国全土の市民たちの大きな声で、弾圧をあきらめ、封鎖政策を転換した。「習近平、辞める」などと叫んだら、通常の場合、公安当局がすぐに聞きつけて、厳しく取り締まるから、これは極めてまれな対応だろう。

・人権を無視する行政の横暴

政府に対する人々の不満や要求を徹底的に抑え込むため、公安当局・司法が強力だ。政府に不都合な人物は次々に拘束し、長期間収監する。

警察や公安当局者は完全武装している。デモの制圧には特に容赦しない。デモ参加者を殴る蹴る、警棒で腹を突きまくり、頭を叩きのめす。逃げる者を引き倒し、のしかかって制圧する。拘束した容疑者に対しては自供するまで拘留するのだから、拷問に等しい。

そのひどさが世界中にばれてしまったのが「ウイグ

ル公安ファイル」（または新疆公安ファイルという）が、2020年5月に流出したことだ。ウイグル族の人々を囚人扱いして再教育や強制労働させている資料だ。それまでも、新疆ウイグル自治区で取り締まりや徹底した弾圧が行われていた様子が漏れていた。聞きしに勝る酷さが明らかにになり、びつくりさせられる。これによって、世界的に「人権侵害のラベル」が中国にべったり張られた。

台湾が併合される時には、当局によって「台湾公安ファイル」が作成されるのだろう。今、新疆にある大規模な「収容施設群」が、台湾人のために再利用されたりして……。 「台湾独立を叫ぶようなヤカラは、新疆送りだ！」という習近平の声が、私の耳に聞こえてくる。

・言論統制が厳しい

政府は政権批判を嫌う。情報を統制し、人民による批判を許さない。建設的な提案でさえ、公に叫ぶことは許されない。新聞も放送も、教科書はもちろんこと、出版物すべては検閲の対象だ。

例えば、ある学生が大学で政府に批判的な横断幕を掲げたら、すぐにはがされ、その学生は行方不明になったという。人々に賛同を呼びかける行為をすれば、

あるいは率先して行動すると、扇動とみなされる。あるいは国家転覆をはかったとみなされる。そこら中に設置された監視カメラが見ており、扇動者を見分ける。

政策に不満を漏らすことをSNSに投稿すれば、(数日後には公安当局の者が家にやってきて、拘束された)という例がある。電話も盗聴されていると考えなければならぬ。SNSに投稿したものは、検閲され、政府に不都合とみなされれば、即座に削除される。そんな人物のアカウントは永久に凍結されるだろう。マスコミは政府の管理化にある。政府のプロパガンダだけが、かまびすしい。

外国からの情報はもちろんのこと、国内でも締め付ける。統制するための技術開発に力を入れている。政府に批判的な書物、不都合なものなど、出版できない。外国の書物など、ろくに理由も示されず、国内販売禁止になったりする。

・人々の行動を監視し、活動を制限する

AIを駆使した監視システムが発達している。当局は監視カメラをそこら中に設置し、市民を24時間見張る。人民を管理する費用に、予算を惜しまない。当局は、個人情報(顔、声、DNA情報も収集の対象に

なる)を収集しているから、不審人物を直ちに特定できる。人々の交友関係もお見通しだろう。目を付けられた人物が、政府の追及から逃げようとしても、下手な変装では、AI技術で見破られてしまう。

国外に逃げても、追求の手が伸びる。追求者たちの活動の拠点としての中国政府関連の施設(実質的な警察署)が秘密裏に世界の主要な都市に続々と設置されていることが報道されている。

・政府に不都合な事実は徹底的に隠す
今般の新型コロナウイルスの感染源が武漢ということがわかってはいるが、その詳細を明らかにしようとしていない。しぶしぶ国際的な調査団の派遣を受け入れたが、ろくに調査させなかった。その感染源が知られることは、中国政府にとって相当不都合なことらしいことが想像できる。

歴史的事実さえ、捻じ曲げられる。天安門事件などは「なかったこと」にしている。学者が自国の近現代史を研究しようにも、制約や規制がかかる。その資料の多くが発禁になっているだろう。中国共産党は、過去を調べられることを嫌っている。彼らにとってやましいことだから、と考えられる。

・信教・信仰を規制する

中国共産党は、いくつかの宗教を弾圧してきた。新興宗教などはカルト扱いしてきた。新疆では、イスラム教を徹底的に弾圧し、モスクさえ破壊してきたし、キリスト教会にも介入して最高位の人選に口出ししてきた。共産党の理念は、宗教の教義と相容れないところがある。

「神よりも、共産党を敬え！ 崇め奉れ！ 党の理念を尊重し、従え！」と言いたらしい。

ことに、最近は個人崇拜の傾向が強くなった。その個人とは、国家主席・習近平だ。たとえば、習近平の顔が「クマのプーさん」に似ているなどは、言ってはならないことになっている。「プーさん」などと言つては、最高指導者に対して不敬に当たるといえる。

・ 共産党幹部たちは特権階級

幹部たちは十分すぎるほどの待遇を受ける。中央の政治局員などは核心中の核心にある。その家族たちにもその恩恵が及ぶ。彼らには、いくらの収入があるか、想像もつかない。彼らの資産は非公開だが、相当なものだと噂されている。

その特権は「既得権」として、彼らは何としてでも守ろうとする。彼らのための「国家」になっている。国家転覆など、彼らにとつてとんでもないことだろう。

共産党政権の体制を盤石なものにしたがるわけだ。

ただし、彼らの中には、トップの権力者にいらまされたり異なる意見を言ったりすれば、たちまち失脚させられる。失脚の口実は汚職だろう。その口実はいくらでもあるのだろう。

・ 統制社会になる

政府のスローガンを人々に押し付ける。

子どもを生み育てることにも、規制がかかる。中国では一人っ子政策を長年続けてきた。人口バランスが悪くなり、近年に解除されたけれど、地方政府は、中央政府に「よい数値」を報告するために、規定以上生んだ夫婦に高額な罰金を課したり、払えない者には戸籍を作らなかつたりなどの意地悪をしてきた。

国民の教育にも、政府は口出しする。毎朝、子どもたちは、習氏礼賛の歌を歌わなければならなくなるだろう。

今般のコロナウイルス感染対策では、ゼロコロナ政策を推し進め、感染者が出たとなれば、徹底的に押さえ込もうとする。地区や都市を封鎖（ロックダウン）するから、人々は外出さえままならなかった。自宅軟禁状態だった。

・ 国際社会に融和・妥協しない

特に中国政府の態度は傲慢だ。自分の主張を押し通そうとする。自国の核心的利益を追求するばかりで、他国の損益を考えない。これはエゴイズムに通じる。自国に利益にならないようなら、友好的な態度は決して示さない。国際社会に嫌われようが、へとも思わない。大国意識を高めている。特に、超大国アメリカに對して敵対心を燃やす。

トップの習近平からして、不遜な態度を示す。氏が他国の首脳と会談するとき、握手から始まるのだが、習氏はすぐに相手の顔から眼をそらし、そっぽを向く。つまり正面に向き、カメラ視線で握手し続けるのが象徴的だ。そんな無礼なふるまいを指摘するような側近がないようだ。

国境があいまいならば、「そこは固有の領土だ」と主張して譲らない。武力で強引に占有しようとする。

他国による制裁や規制に對し、もろに逆切れする。戦狼外交だ。高圧的に怒りまくって対抗する手段をとる。制裁の原因が自国側にあることに反省するそぶりさえ見せない。自国の非を認めない。制裁の理由や正当性を議論しようともせず、「やられたら、やり返せ」的な発想に徹している。

そのほとんどは、正当な理由のない、いやがらせ的

な報復をするのだから、始末が悪い。例えば、ライバル国が関税を引き上げたならば、対抗して自国でも関税を引き上げる。

突然、特定の国（中国政府の気に入らないことをした国）との輸出入を止めたり（経済的な威圧という）、人々の後出入国のビザの発給を止めたりするのも、得意技にしている。

私としては、台湾がそんな国の一員になってほしくない。